

(一社)大牟田未来共創センターの取り組み

参考:(一社)TOMOSU

- 新しい「公」を担う主体 -

(一社)大牟田未来共創センター 理事
(一社)TOMOSU 理事
原口悠

2021年3月

一般社団法人大牟田未来共創センター(福岡県大牟田市)

■センターの事業理念(ミッション)

- 大牟田に暮らす一人ひとりが、生まれてから死ぬまで人生の主人公として、つながりの中で持てる力を生かし、その人らしく生きることには貢献する
- 大牟田が持つ歴史や文化、様々な地域資源を捉え直し、可能性や魅力を最大限引き出すことで、大牟田で暮らすことへの誇りや愛着を育むことに貢献する
- 大牟田が創造性にあふれる持続的なまちとして、世界のハブとなり、未来を提案し続けることに貢献する

■センターの立ち位置(ステークホルダー)

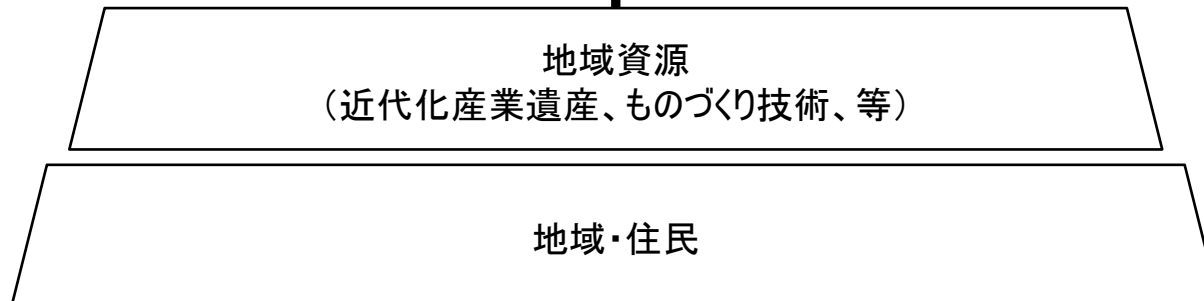
誰にとっても暮らしやすくワクワクするような
創造性にあふれる持続的なまち、大牟田



縦割りの打破(調整)、政策展開支援
ビジョンの共有



地域資源の価値を再構築
地域・住民との協働

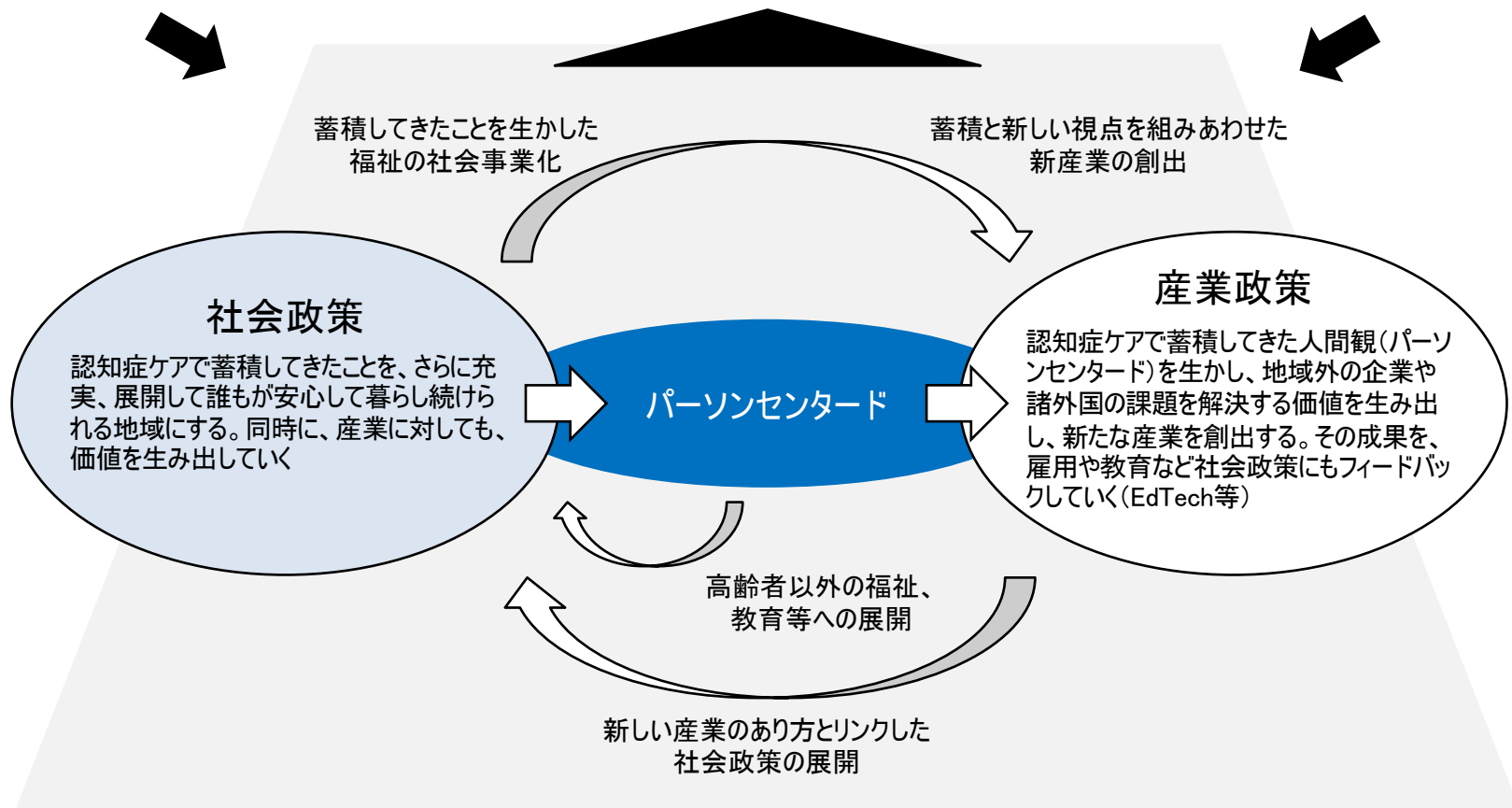


■大牟田未来共創センターのビジョン

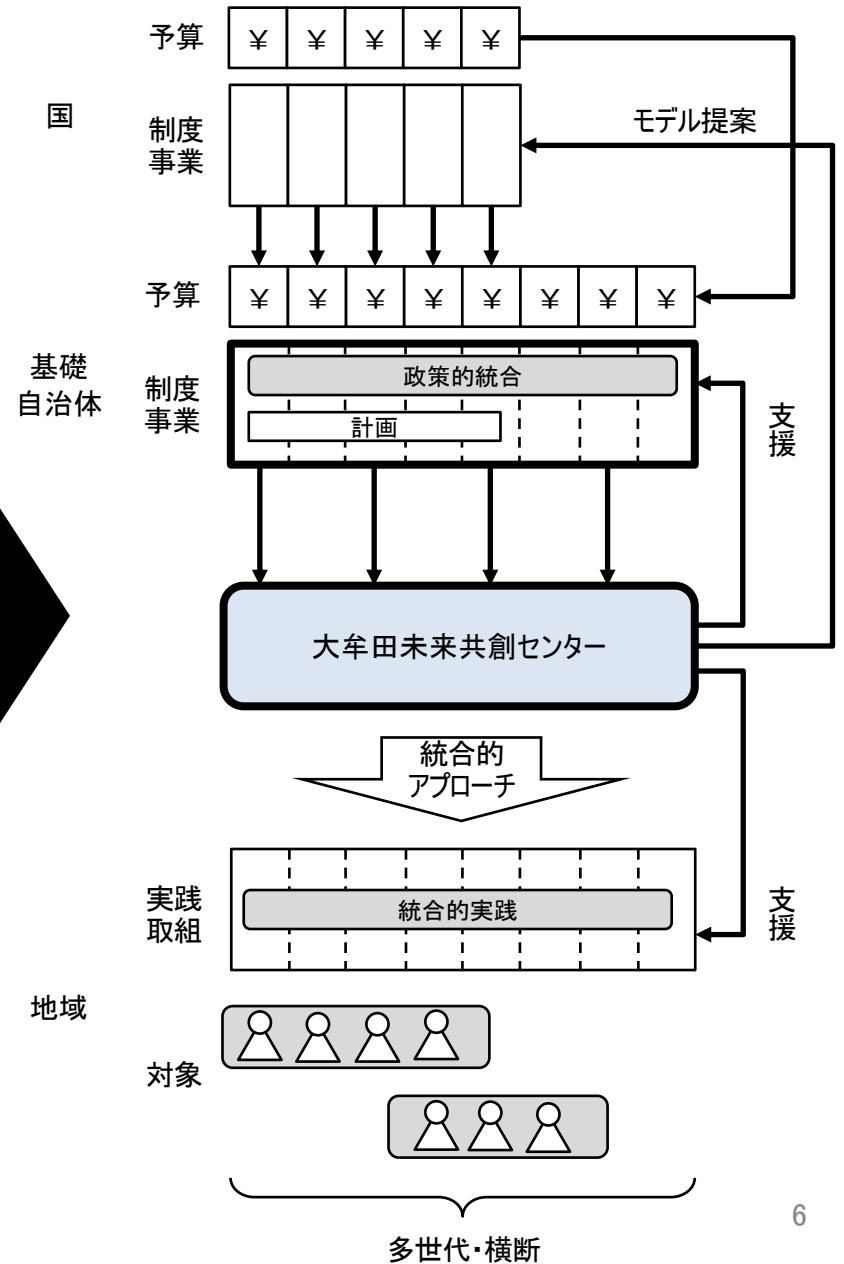
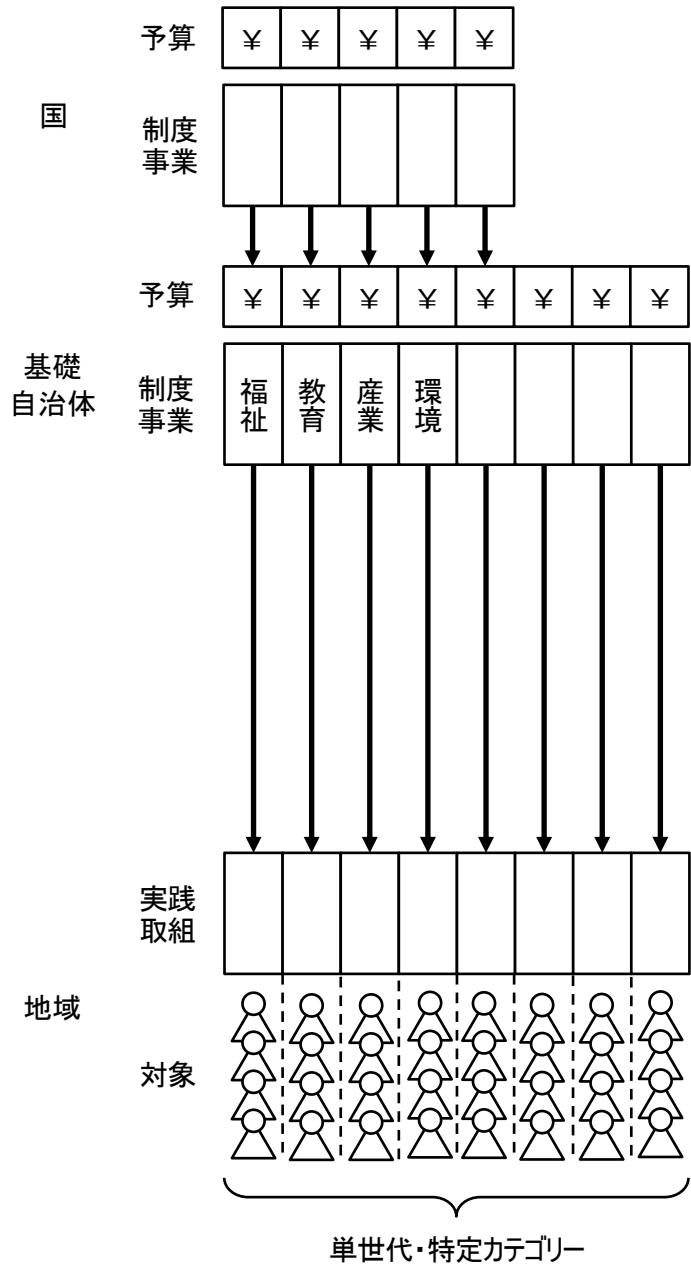
誰にとっても暮らしやすくワクワクするような 創造性にあふれる持続的なまち、大牟田 【超高齢社会「以後」の社会モデルの提示】

大牟田市の状況

国内外の状況



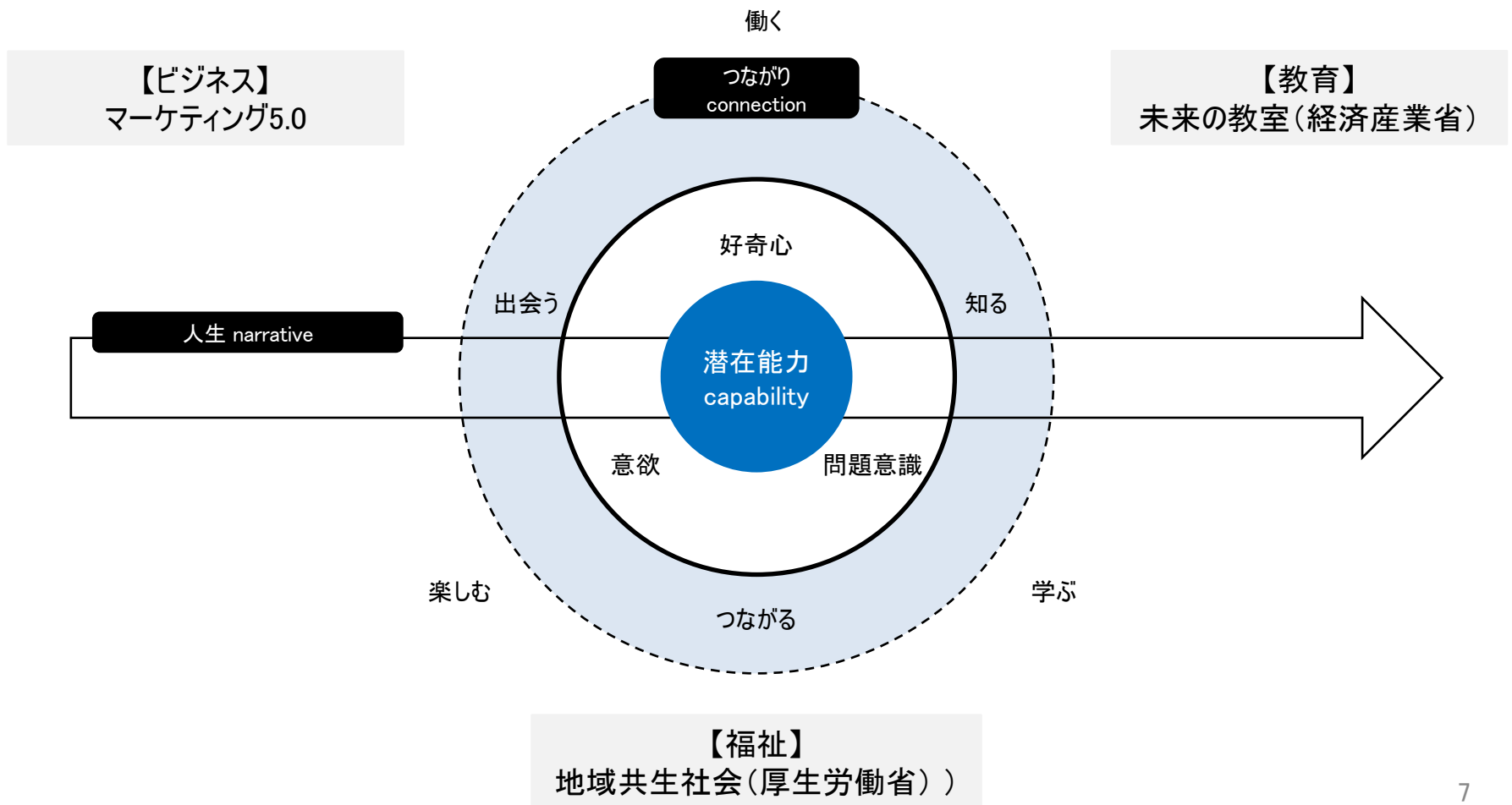
■縦割りを打破する統合的なアプローチ



■核となる新しい人間観

パーソンセンタード

生活者(パーソン)の暮らしを、独立した個人の暮らしとして捉えるのではなく、**周りの家族や地域の人との繋がり**と、その繋がりの中で捉え直される**ケイパビリティ**に基づき、**豊かで継続性を持ったナラティブ**によって成り立っていると捉えるもの



【ビジネス】「パーソンセンタード」のマーケティング理論としての価値

●Product-Driven Marketing(1.0)

製造した製品そのものに着目する手法



●Customer-Centric Marketing(2.0)

ユーザ(消費者)を大量生産、大量消費の社会モデルにおける規格化された人として捉える手法



●Human-Centric Marketing(3.0)

生活者(ヒューマン)を日常のナラティブの中で暮らしている存在として捉える手法



●Online and Offline Marketing(4.0)

生活者(ヒューマン)をデジタル空間&フィジカル空間で暮らしている存在として捉える手法



●Self-Actualization Marketing(5.0)

≡ Person-Centered Design

生活者(パーソン)の暮らしを、周りの人との繋がりと、その中で捉え直されるケイパビリティに基づき、豊かで継続性を持ったナラティブによって成り立っていると捉える手法



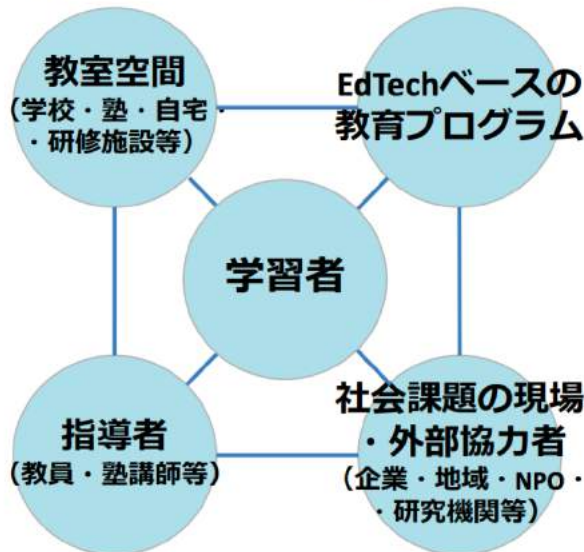
※参考)パーソンセンタードケア: 認知症をもつ人を一人の「人」として尊重し、その人の立場に立って考え、ケアを行おうとする認知症ケアの一つの考え方

Kitwood, T.(1997) "Dementia Reconsidered: The Person Comes First," Open University Press.

【教育】「未来の教室」(経済産業省) ※一昨年度採択された事業

- 「未来の教室」とは、学習者の意志が中心にあり、EdTechベースの教育プログラムを活用し、学校の授業・特別活動・部活動、生涯学習施設、塾・通信教育、自宅、研修施設、企業や地域等の社会課題の現場などの要素が相互に深くつながる中で(Connectedな状態)、チェンジ・メイカーに必要な発想力・行動力・知識・教養を深め育む学び方、つまり学習者が自ら学びを選び取れる、学習者中心のConnectedな教育社会システムではないか。
- まず、①そのような「未来の教室」にふさわしい「EdTechベースの教育プログラム」の設計・開発・実証を進めつつ、②個々の学習者や全国の教育現場に普及し、その教育プログラムが多様な主体の協力で不断に更新され続けていくための「環境整備」を進めるべきではないか。

「未来の教室」
(学習者中心のConnectedな教育社会システム)



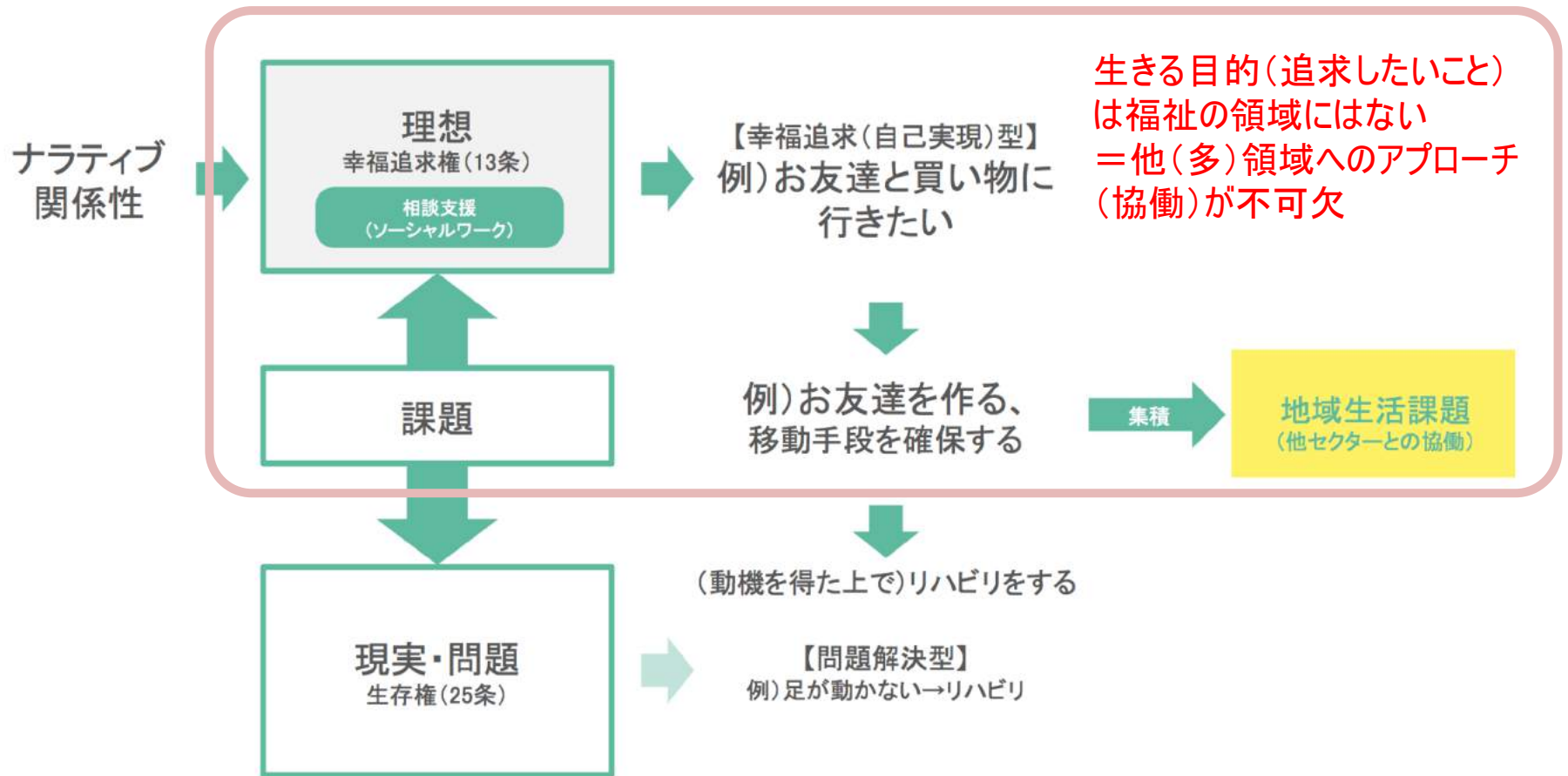
「EdTechベースの教育プログラム」の考え方

② 「課題設定・解決力」「創造力」の向上
(EdTechを活用し、PBLをSTEAMS学習へ深化)

① 「好き」「ワクワク」
「自信・意欲・志」
の発見・向上
(EdTech活用)

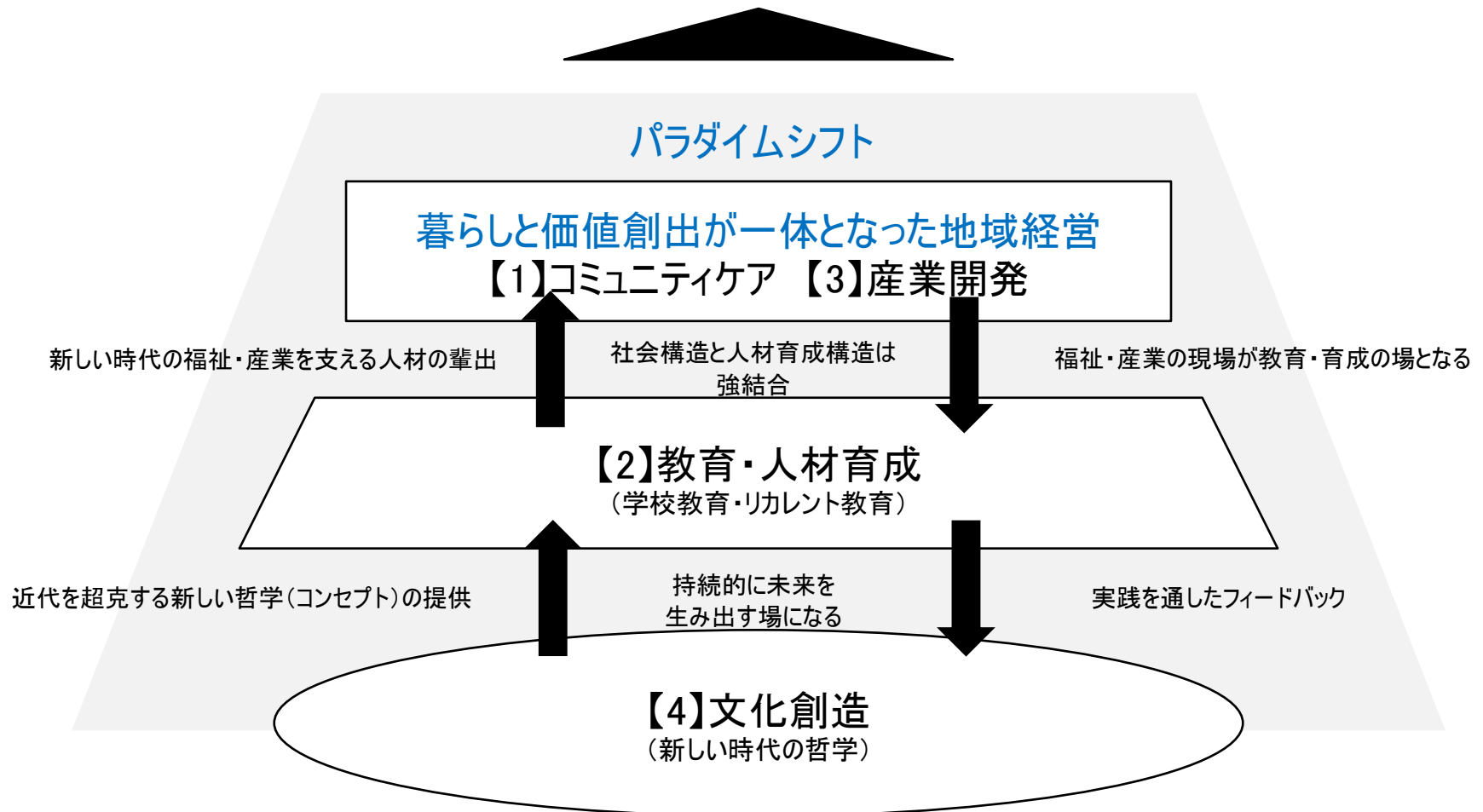
③ 「基礎学力・スキル」の向上
(EdTech活用で個別化された生産性の高い学習スタイルの選択)

【福祉】13条をベースとした社会保障(ケア)へ



■センターの事業(連関)

大牟田が、誰にとっても暮らしやすくワクワクするような、
創造性にあふれる持続的なまちとして、世界のハブとなり未来を提案し続ける
【超高齢化社会「以後」の社会モデルの提示】



■これまでの取り組み

●生活支援コーディネーター・共創サポーター一層【令和元年度】

大牟田市からの受託事業。介護保険制度の中にある「生活支援体制整備事業」の「生活支援コーディネーター(第一層)」と、厚生労働省が進める地域共生社会の実現に向けた「地域力強化推進事業」として市が実施する「共創サポーター(第一層)」を受託。市内の地域生活課題の全てに関わることができ、関係部署・機関との協働を期待されているため、大牟田未来共創センターの全事業の基盤になっている。

●「交通」から「移動」へ

これまで主に都市整備の観点から扱われてきた「交通」という政策領域(課題)を、個人の「移動(モビリティ)」という視点に転換し、新しい政策領域として設定している。具体的には、「フレイル予防」「社会的包摂(地域共生社会)」といった医療・介護政策、「地域交通」というコミュニティ政策や「産業政策」「まちづくり」といった幅広い政策領域をスコープに収め、個人の「移動(モビリティ)」という視点から政策を形成している。

●「住まい」から「住まう」の保障へ(市営住宅について)

近年、セーフティネットとしての位置付けが強化される公営住宅について、支援が必要な人たちがばかりを集めることで、コミュニティの持続が難しくなっている状況(政策的帰結)から捉え直し、「住まい(ハード)」の保障から、「住まう(ソフト)」の保障への転換を目指している。公営住宅政策そのものの転換、日常的なつながりの創出、管理強化とならないアウトリーチ、日常的な相談窓口などを市民セクターと協働して実装していく。

●雇用(就労)のあり方の再検討

少子高齢化、人口減少が著しく進行している現状において、人手不足が深刻化している。それに対して、他地域との人材の取り合いをするだけでなく、「週5日・8時間/日」という「標準的」な雇用(就労)のあり方自体を見直し、業務の見える化・細分化を進め、雇用の弾力化を目指す。このことは人生100年時代にあった働き方(副業、学び直し等)への転換、障害者や高齢者の就労を促進することにつながる。

●大牟田市健康福祉総合計画

大牟田市からの受託事業。これまで別々に策定されていた、高齢、障害、健康、食育など9本の行政計画を1つにまとめ、策定する。個人を中核として位置付け、相談支援や情報アクセスの保障、教育や就労などの機会をノーマライズしていくことを計画に書き込むことを目指している。障害(のモデル)を基盤に置くことを想定。共通する政策課題として「移動」「住まい」「参加」等を位置付け、それぞれの個別課題を書き込んでいく。

●宅峰中学校「総合的学習の時間」

わくわく人生サロンの「子ども版」として実施。どうしても画一的になり、管理傾向が強まりがちな学校教育において、子どもたちはもちろん、教員も含めて、個人の潜在的な欲求や能力を引き出し、自己実現(幸福追求)にフォーカスした取り組み。失敗や悩みがあることが当たり前であることを大人たち(センタースタッフ、教員)が自らの人生を通じて示すことで、上下関係による管理・強制ではない、自発性を引き出していく。

●パーソンセンタード・リビングラボ

当団体が中間支援を行う形で、「パーソンセンタード」をコンセプトとし、仮説探索的な形でのリビングラボを実施。企業による新規事業・サービスのコンセプトの転換やブラッシュアップ、事業・サービス化の支援を行う。その際、地域の課題をいわば新たな知財として捉え、地域の福祉等の現場で活動する専門職等の知見を他の領域に持ち込むことで価値化(資金化)し、団体や職員に対価として支払うことはもちろん、非営利性が高い地域活動へと還元する。

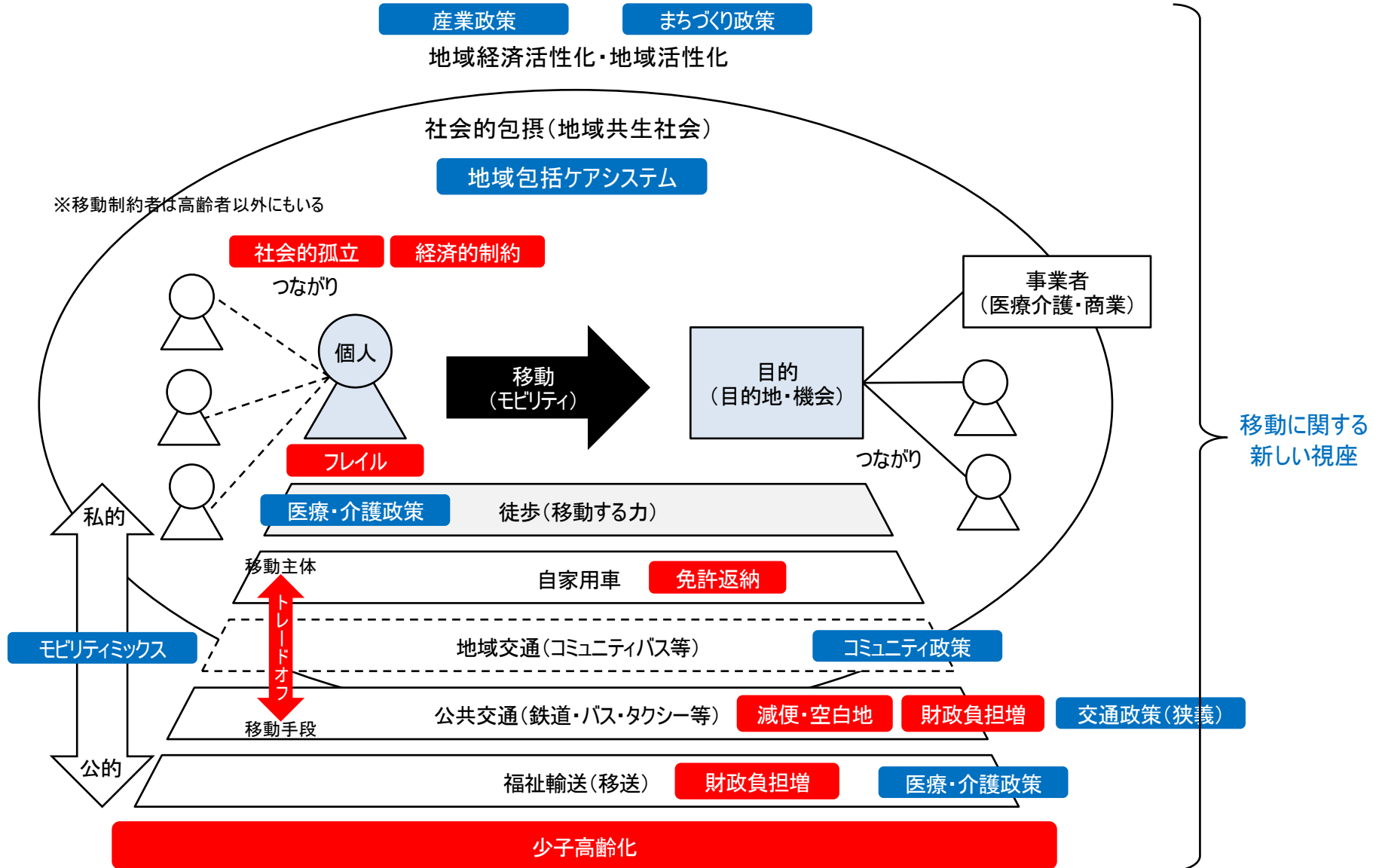
●わくわく人生サロン(リビングラボ共同実験)

これまで進められてきた、グループに注目し、介護予防の文脈で「集う」ことを目的として政策的にも推進されてきたサロンに対して、個人の潜在的な欲求や能力、自己実現(幸福追求)にフォーカスした取り組み。相談支援を基盤として、ナラティブとグループの力を生かしてそれを引き出していくことを目指している。状況に応じて関係機関との連携を図り、人生や生活に伴走する。リビングラボの舞台としても機能させる。

●大牟田SIBコンソーシアム【平成30年度・令和元年度】

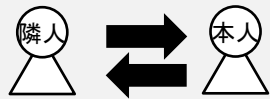
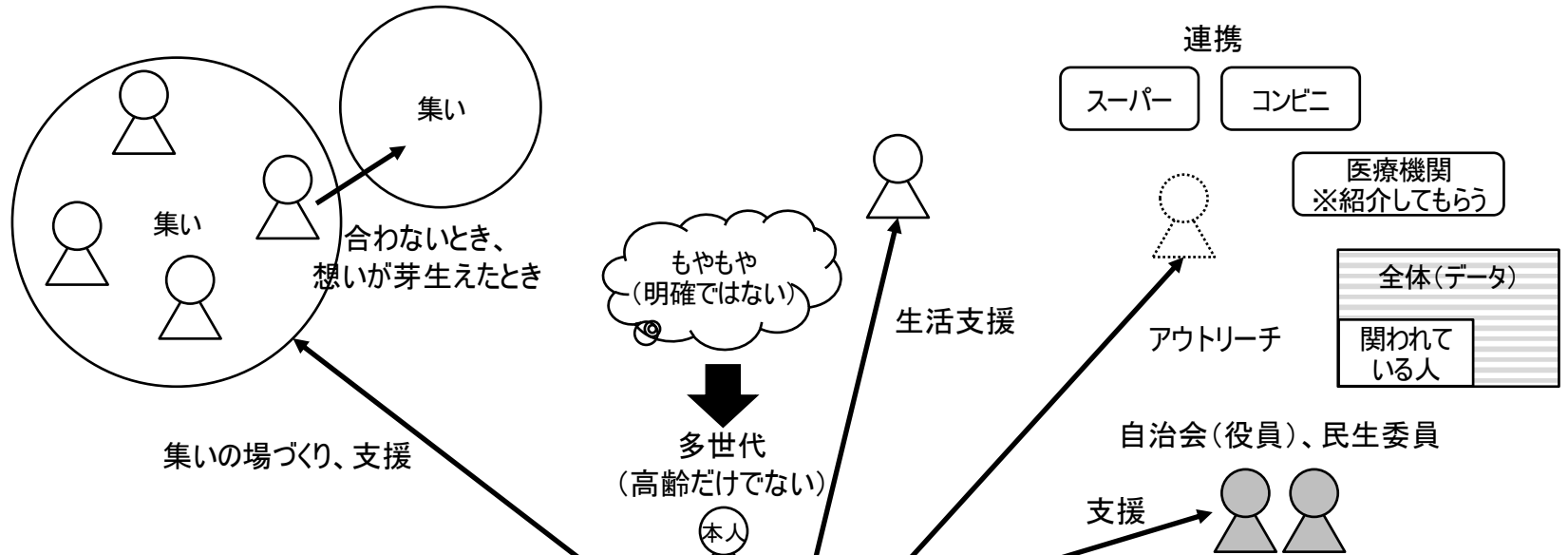
厚生労働省「保健福祉分野における民間活力を活用した社会的事業の開発・普及のための環境整備事業」の採択を受け、地域共生社会の実現に必要な①インフォーマルサービス(ご近所による支え合い)の開発・実践、②就労メニュー(就労を通じた自立支援につながるフォーマルサービス)の開発、及びそれらの取組みに係るコストや価値について評価するための指標作成に取り組んでいる。

■「交通」から「移動」へ(考え方)



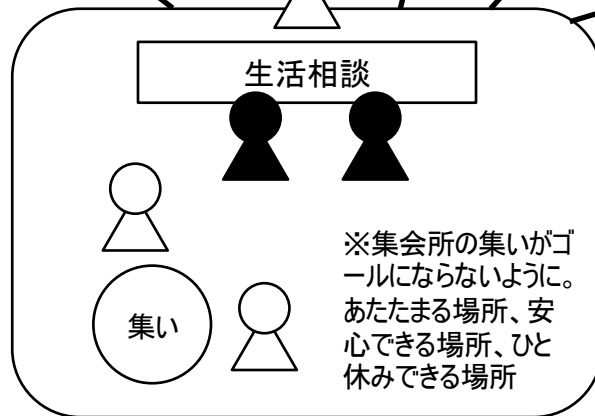
■「住まい」から「住まう」の保障へ(市営住宅について) 構想

テーマ: どうすれば安心して暮らし(住まい)続けることができるのか。その模索のひとつ。(市住(公営住宅)・市全体へ)



きずなを守るケア

本人だけを大事にするのではなく、隣人をフォローし続けるだけではなく、地域の「きずな」を守るケアを考えていく必要があるのではないか(仮説)。個人だけではなく、「地域(全体)が老いていく」ことを前提とした新しいアプローチを模索していきたい。地域づくり、文化づくり。



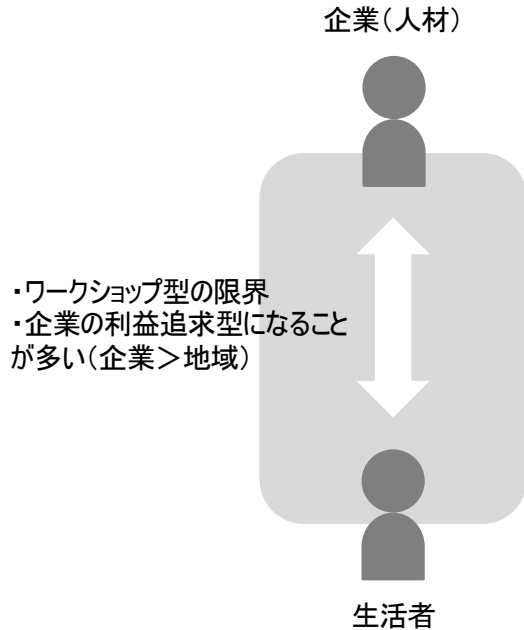
<連携先>

- 市営住宅管理センター
- 市役所各課
 - ・建築住宅課
 - ・福祉課
 - ・保護課
 - ・地域コミュニティ推進課
 - ・市民課
 - ・環境整備部
 - ・防災対策室 等
- 地域包括支援センター (介護予防相談センター含む)
- 医療機関
- 事業所 等

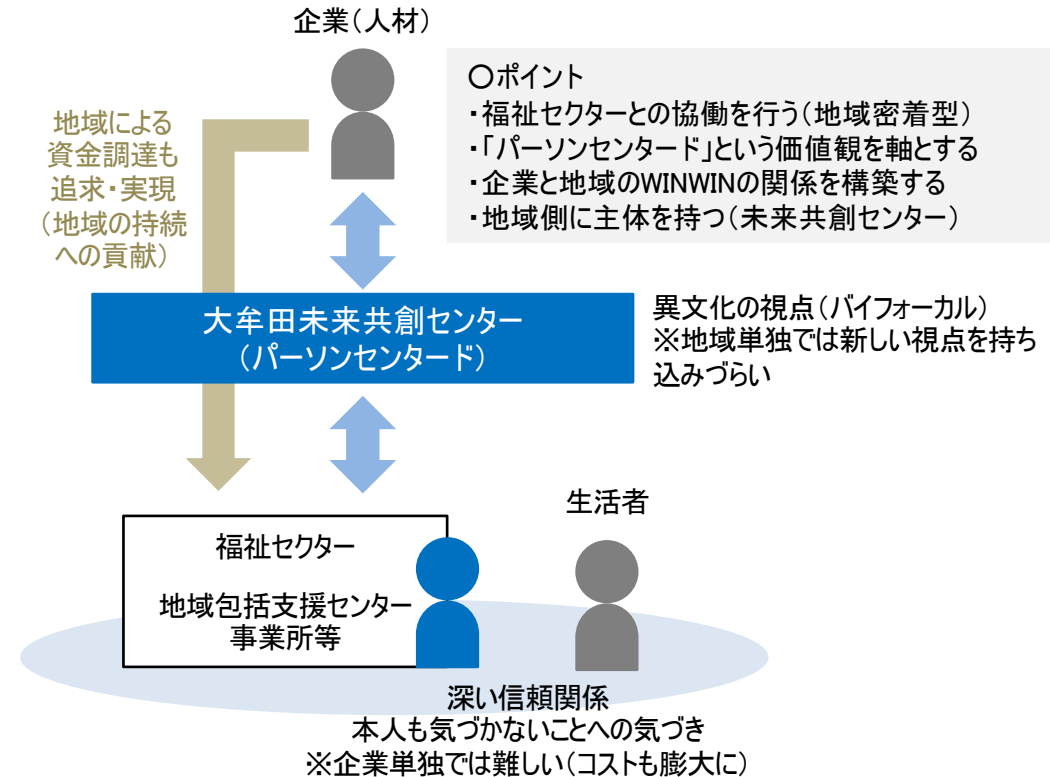
■パーソンセンタード・リビングラボ

2018年2月から12月まで実施した、NTT西日本、NTTとの「自治体・地域住民・企業のサービス共創の仕組み『地域密着型リビングラボ』」の蓄積や、このリビングラボを舞台に2018年度に実施した経済産業省「未来の教室」事業をさらに発展させて構築する。

一般的なリビングラボ



パーソンセンタード・リビングラボ



■ パーソンセンタード・リビングラボ 大牟田市、NTT西日本、NTTとの協定締結

■ 2018年2月26日～2018年12月28日：大牟田市、NTT西日本、NTT
※大牟田未来共創センター設立前であり、締結をコーディネート(事務局的な役割)

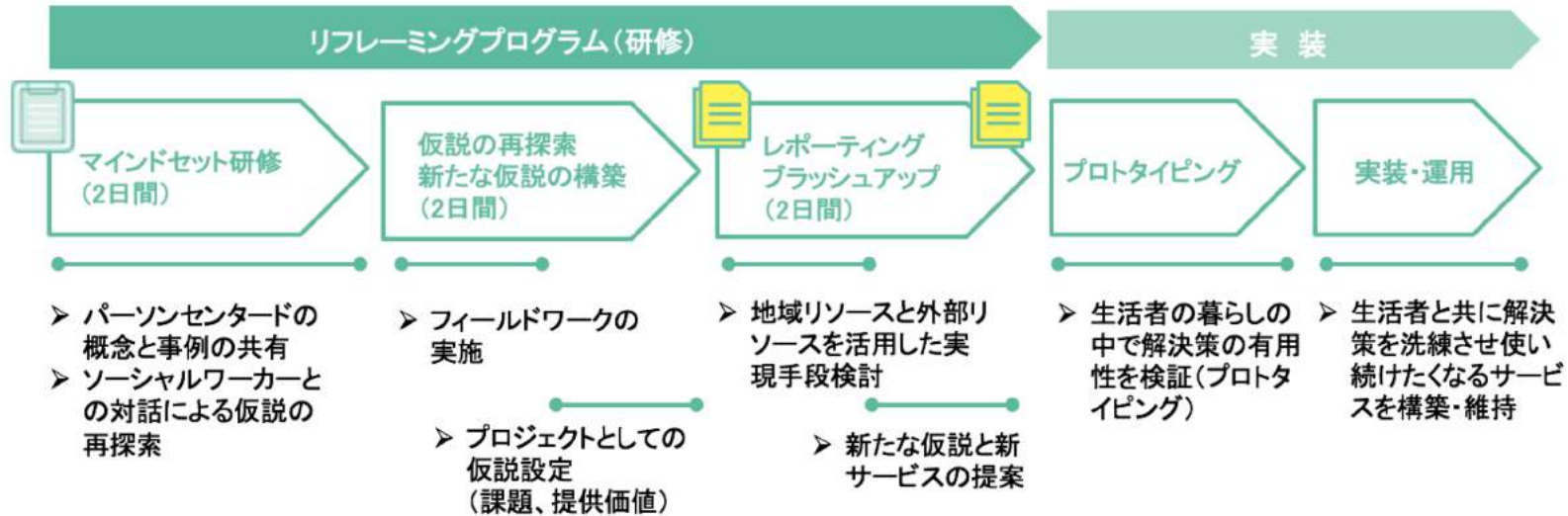
(報道発表資料)	2018年2月26日 福岡県大牟田市 西日本電信電話株式会社 日本電信電話株式会社
地域と企業の共創による「地域密着型リビングラボ」共同実験の開始について ～自治体、地域住民、企業が連携したイノベーション創出～	
福岡県大牟田市（市長：中尾昌弘 以下、大牟田市）と西日本電信電話株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長：村尾和俊 以下、NTT西日本）、日本電信電話株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：鶴浦博夫 以下、NTT）は、自治体・地域住民・企業のサービス共創の仕組み「地域密着型リビングラボ」の共同実験（以下、本共同実験）を、2018年2月26日（月）より実施します。	



■ 2019年8月30日～2020年7月31日：大牟田市、大牟田未来共創センター、NTT西日本、NTT

(報道発表資料)	2019年8月30日 福岡県大牟田市 一般社団法人大牟田未来共創センター 西日本電信電話株式会社 日本電信電話株式会社
地域と企業が新しい形に関わり合うパーソンセンタードリビングラボによる社会課題解決の共同実験を開始	
超高齢社会の先進都市である福岡県大牟田市※1（市長：中尾 昌弘、以下、大牟田市）、一般社団法人大牟田未来共創センター（以下、大牟田未来共創センター）、西日本電信電話株式会社（以下、NTT西日本）、日本電信電話株式会社（以下、NTT）は、2019年8月30日（金）より、地域と企業が新しい形に関わり合う「パーソンセンタードリビングラボ」による社会課題解決の共同実験を開始します。	

【参考】経済産業省「未来の教室」(平成30年度)



マインドセット研修の様子 (1・2日目)

パーソンセンタードの概念と、事例の共有を行うほか、企業が開発テーマとしている内容に即したケースワークを実施し、パーソンセンタードなサービスの在り方について検討する。



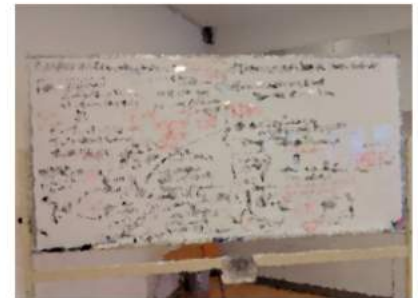
フィールドワークの様子 (3日目)

企業が開発テーマとしている内容に即したフィールドワークを実施し、生活者の視点でのパーソンセンタードなサービスの在り方について検討する。



仮説の再探索 新たな仮説の構築 (4日目)

ケースワークやフィールドワーク、インタビューなどを通して検討した内容を振り返り、企業が開発テーマとしている内容における仮説を再探索し、新たな仮説の構築を行う。



レポートイング・ブラッシュアップ (5・6日目)

新たな仮説に基づくサービスについて、行政やサービス現場関係者らとともに、そのサービスの価値や展開可能性について再検討を行う。

わくわく人生サロン(リビングラボ)

LIFE DESIGN PROJECT

わくわく人生サロン

気軽に始める 自分との人生相談

よくは？ 家のよさか？ ほかの？

65歳以上 大牟田市在住 要支援・要介護認定を受けていない

好評につき追加募集 参加費無料

実施日程：2020年2月・3月の期間で全5回実施
申込締切：2020年1月31日(金)
定員：30名(定員超過の場合は、抽選した上で参加者決定があります)
主催・事務局：一般社団法人 大牟田未来共創センター(仮称) (仮称)
共催：大牟田市、NTT西日本、NTT

- 対象者：大牟田市在住の要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方
- 募集期間：2019/11/28～2020/1/31・開催期間：2020/1/10～2020/3/13※
- ※新型コロナウイルスの影響により、後半のグループは一部プログラムを延期(再開時期未定)
- サロン申込者(面談参加者)：35名/サロン参加者：32名(面談後の辞退：3名)/センサー設置者：18名(センサー設置辞退：14名)

わくわく人生サロンは、5人1組のグループでおたがいに話をする集いです。

65歳を過ぎたあなたへ、人生100年時代とされますが、どうしていますか？
これまで、頑張ってきたことや大切にできたこと、これからやってみたいこと、夢を話してみたいこと。そして、これらもつづける人生。
自分のことを、おたがいにあれこれ話しながら、これまでの自分を思い出したり、知らなかった自分に気づいたり、これから自分に思い出したり、知らなかった自分に気づいたり、お気軽にご参加ください。



お申込から参加までの流れ

- 1 お申込：本紙裏面の申込用紙(またはFAXやメール)で、参加を申込みます。
- 2 面談日の相談：事務局から電話で面談日を相談します。
- 3 事前相談：面談にお越しいただき、専門スタッフとサロン日時やセンサー設置日を相談します。
- 4 サロン日程の決定：事務局で検討後、サロン日時の連絡があります。
- 5 センサー設置：専門スタッフが、ご自宅に伺いセンサーを設置します。
- 6 サロンに参加：案内資料がご自宅に届きます。わくわくしながら、サロンにご参加ください！

第1回 あの世界 人生探偵団

手紙や靴、写真など暮らしの中にあったモノには、その人の人生が色濃く残っています。第1回では、いくつかのモノから、持ち主の人生の1シーンをみんなで推測してみます。



第4回 データが教える 知らない私

普段、自分とはどんな風に暮らしているのでしょうか？センサーは、自分では気づかない自分の姿を捉えています。第4回では、データを参照しながら、知らなかった自分の姿に出会います。



睡眠センサーって？
ベッドやマットに設置すると、睡眠時間や寝ている時の呼吸数を測ることができます。

電力センサーって？
分電盤に設置する、家電ごとの電力消費量や電圧変動を測ることができます。

第3回 カフェ・ド・人生

これまでの人生でのいろいろな出来事や自分の気持ち。第3回では、みんなでおいしいお茶を飲みながら、自分の人生をつまみに、わいわい楽しくおしゃべりします。



第2回 ハンバーグとピーマンと私

自分が好きなことや好きだったもの、苦手なものや苦手だったこと。第2回では、いろいろな自分の好き/苦手やその共通点を手探りしながら、自分が何を心地よい/わるいと感じているか、探っていきます。



第4回において、睡眠センサーと家電センサーで得たデータを「自分の無意識を知るための情報」として利用
※参加者にとっても情報提供、センサー利用に価値がある形にしている

第5回 人生は つづくよ

これまでの回で見てきた、いろいろな自分。最終回では、思い出したり、新たに覚えてきたことを大事にしながら、人生のつづきを自由に描いてみます。



サロンが終わったあと

よく知っている自分とは、はじめて知った自分。誰かに話したら、気にならなかったこと、思いがけなかったこと、言えなかったこと、思わず笑ってしまったこと、なつかしい気持ち、ほかにたくさん、誰の中にも、案外気づかなかった自分があるものですね。「好きなことややりたいこと」が苦手なことなどは、もうやめよう「今のままでも、いいや」などなど、どこか胸の力を抜いて、ときどきわくわくしながら過ごせたらうれしいです。またお会いしましょう、その日を楽しみに。

参加者の声
自分の人生をふりかえってみると、なかなかできないことで、おもいがあった。サロンの担当者も好青年で依頼ができました。(70代・大牟田市在住)

参加者の声
自分の生きてきた道をもう一度ふりかえって考えるよ機会になった。また忘れていたことを多く思い出せて、これからの人生でやりたいことも出てきました。最初は悩んでいましたが、いい質問の中でいいメンバーに出会えて、自分を知らなかった自分の姿に出会うことができました。(70代・大牟田市在住)

【参考】一般社団法人TOMOSU(奈良県奈良市)

目標(ビジョン)

奈良の地が、長い歴史の中で培ってきた自然と調和的な循環・共生の思想を基盤とし、すべての人が自らの潜在能力を最大限生かし、安心して暮らすことができ、世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まる持続的で創造的な地域となること

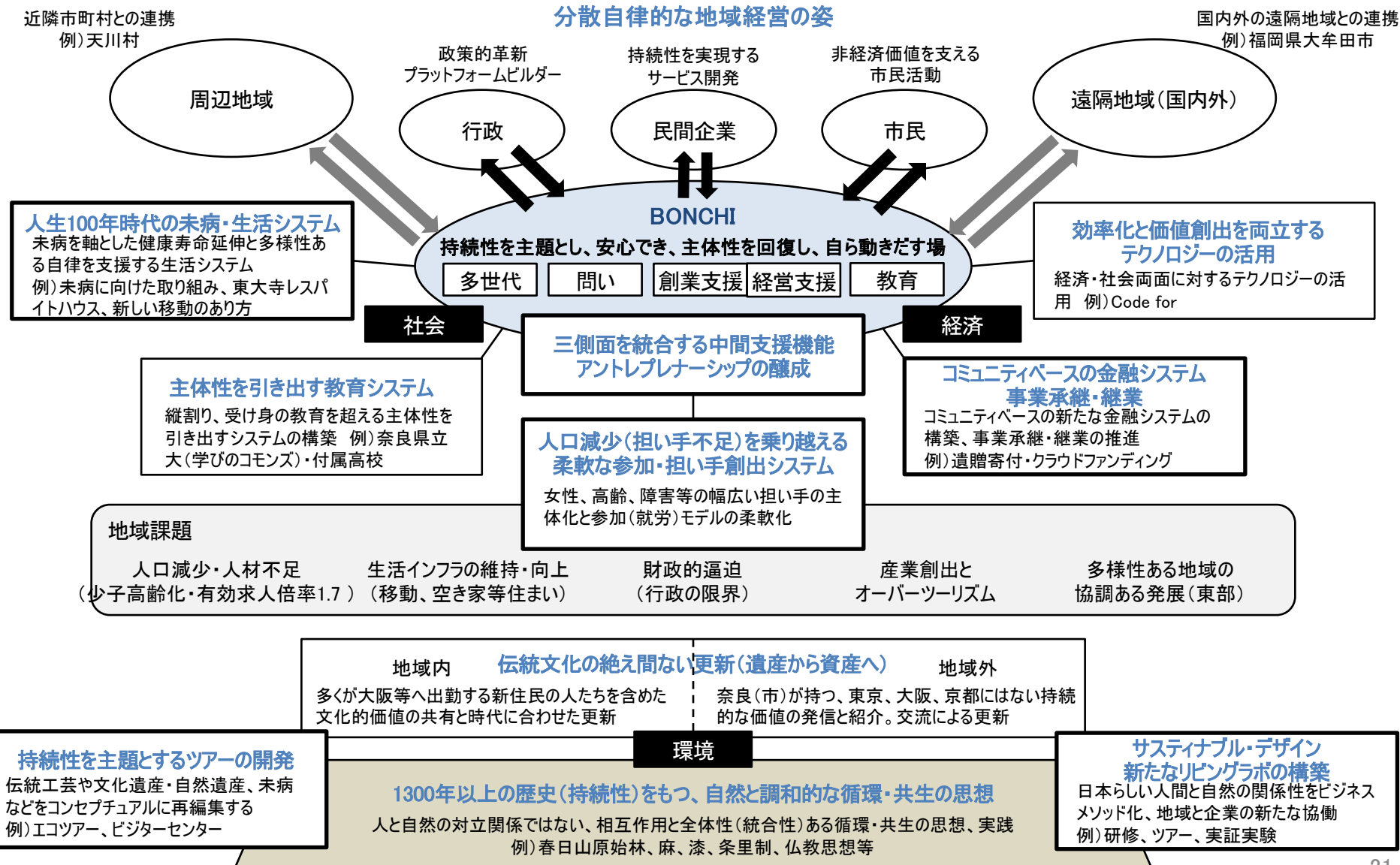
基本理念(ミッション)

1. 「奈良」の地が持つ自然と調和的な循環の思想を生かし、持続可能な地域を作る
2. 行政や民間主体とのパートナーシップを結び、新たな「公」の担い手となる
3. 世界が求める「持続性」を日本らしい形で体現し、発信することで、世界的なハブとなる

目指している地域の姿

向こう1000年続く、自然と調和的な循環・共生社会の実現

分散自律的な地域経営の姿



■当団体が運営する新しい拠点：BONCHI

奈良市から「奈良市ベンチャーエコシステム推進事業」を受託し、協働して実施

よくある創業支援施設ではなく、多様性ある生活者が集い、知的な探索を行う機能を備えた地域経営・創業支援拠点を運営している。「ひとりでに、持続可能な地域や社会が生まれる場所。」

【1F】問いや知見の集積・発信、多様性(開かれた場)



奈良市の創業支援の一環でTOMOSUが運営するBONCHI※では、「時代を読み解く500冊」と題した本を揃えた書店を開いています。本を手掛かりとしたポッドキャストコンテンツも配信開始。



【2F】ワークスペース

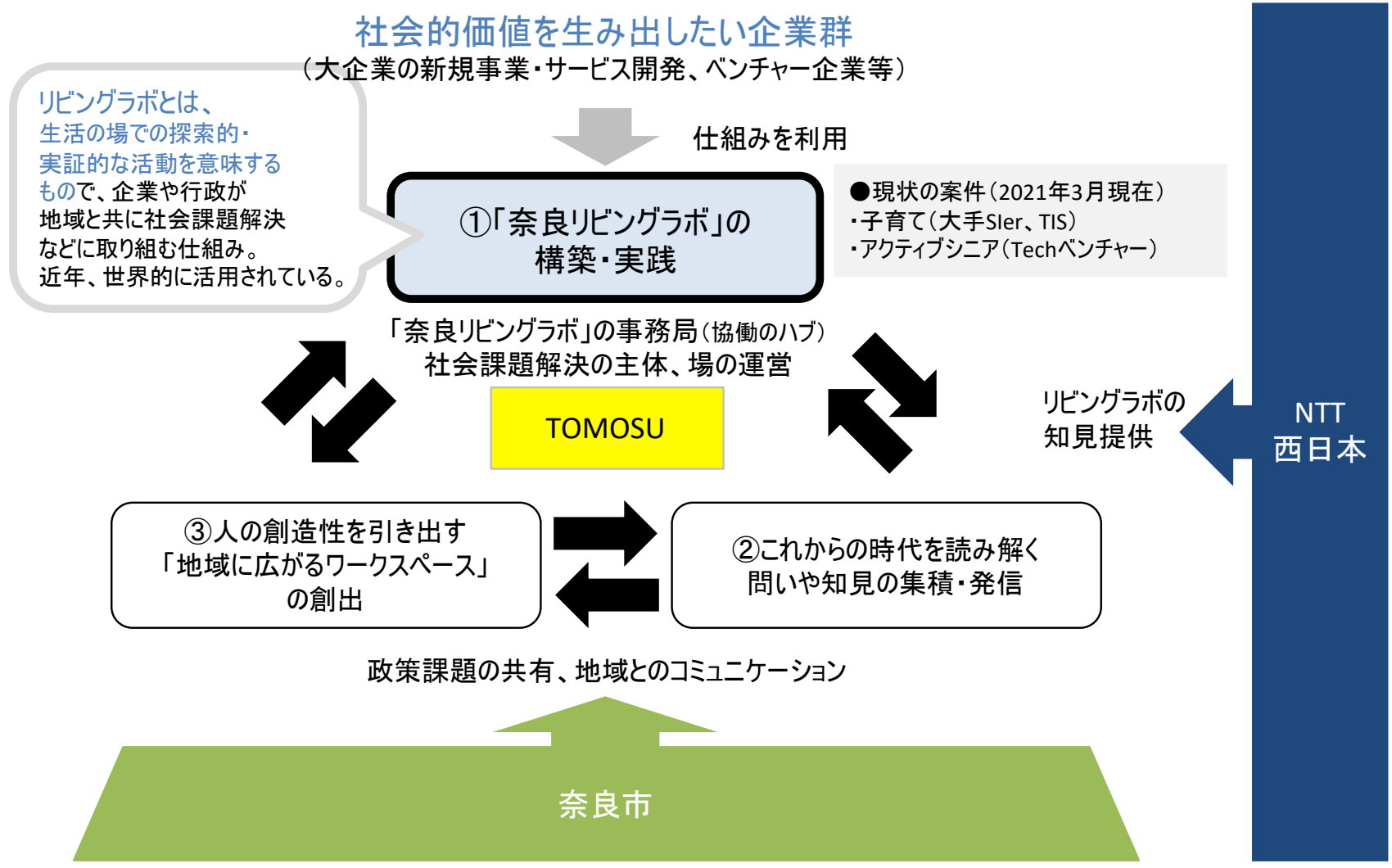


BONCHIの2Fにはコワーキングスペースがあり、リモートワークが広がる中、多様な働き方の魅力的な人たちが集まっています。



※「BONCHI」は、創業支援施設でありながら、特定の目的を持った人だけでなく多様な人に開かれた空間づくりが評価され、2020年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しています。

2020年11月、奈良市、TOMOSU、NTT西日本の三者で、「社会課題の解決と新たな価値創出を実現する奈良リビングラボ構築に関する共同実験」協定締結。現在2社の企業(東京、関東)と案件を進めている。



①「奈良リビングラボ」の構築・実践：子育てリビングラボの全体像

(2021年3月1日現在)

TOMOSUからみたそれぞれの想い・願い		
行政	子育て中の親	企業【TIS社】
リスクの高い親子に迅速な対応をしていくだけではなく、幅広く子育てを支援することで、楽しさを感じ、親と子が自分らしくいられることをサポートをすること	情報が氾濫する中で、孤独や不安を感じすぎることなく、完璧さを社会から強いられず、自分のペース、親子のペースで周囲の協力を得ながら子育てをすること	自社が持つテクノロジーや資源を活用し、子育てに関するサービスを開発・提供すること

【立場を超えて、想いや目標を共有した協働(リビングラボ)】

地域の子育て支援に関わる人材の育成、支援の現場で使いやすいプログラムの開発

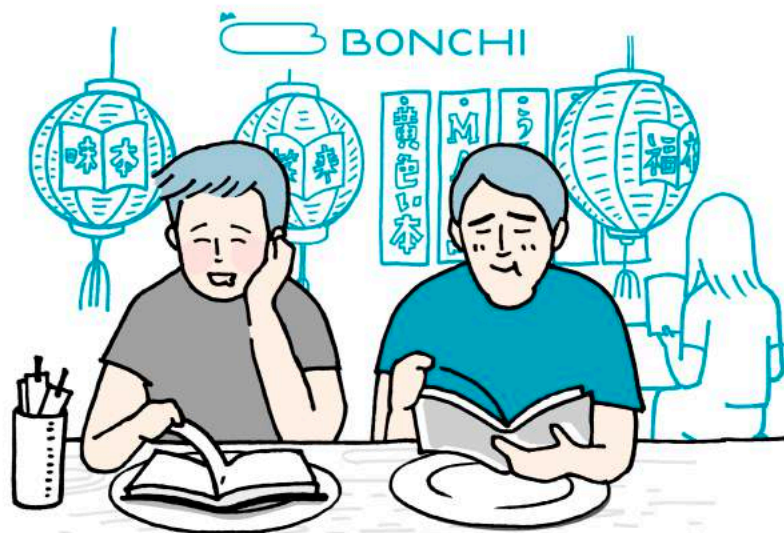
BONCHIの子育て支援機能の強化

行政の子育て支援コミュニケーションの改善

子育て中の親が自身の人生を豊かにする
情報や機会等の充実

TIS社との協働による新たな子育て支援サービスの開発 <企業協働>

■②これからの時代を読み解く問いや知見の集積・発信：ポッドキャスト【味本飯店】



時代が見えそう

味本飯店

AJI PON HAN TEN

ようこそ味本飯店へ！今宵も当店では、いろんなゲストが、選んだ本に触発されて、時代や社会、人や自然のことを巡る話題を、ホストと一緒に深めています。聞こえてくるのは、私たちの当たり前を解きほぐし、そこから自由にしてくれる様々なヒント。ゲストとホストが織り成す話は、それぞれに時代をまなざす問いを投げかけていて、より本質的な思考へ、無防備な感性へ、あなたを誘います。宇宙技芸的食本吃好！お気軽に寄ってってください！

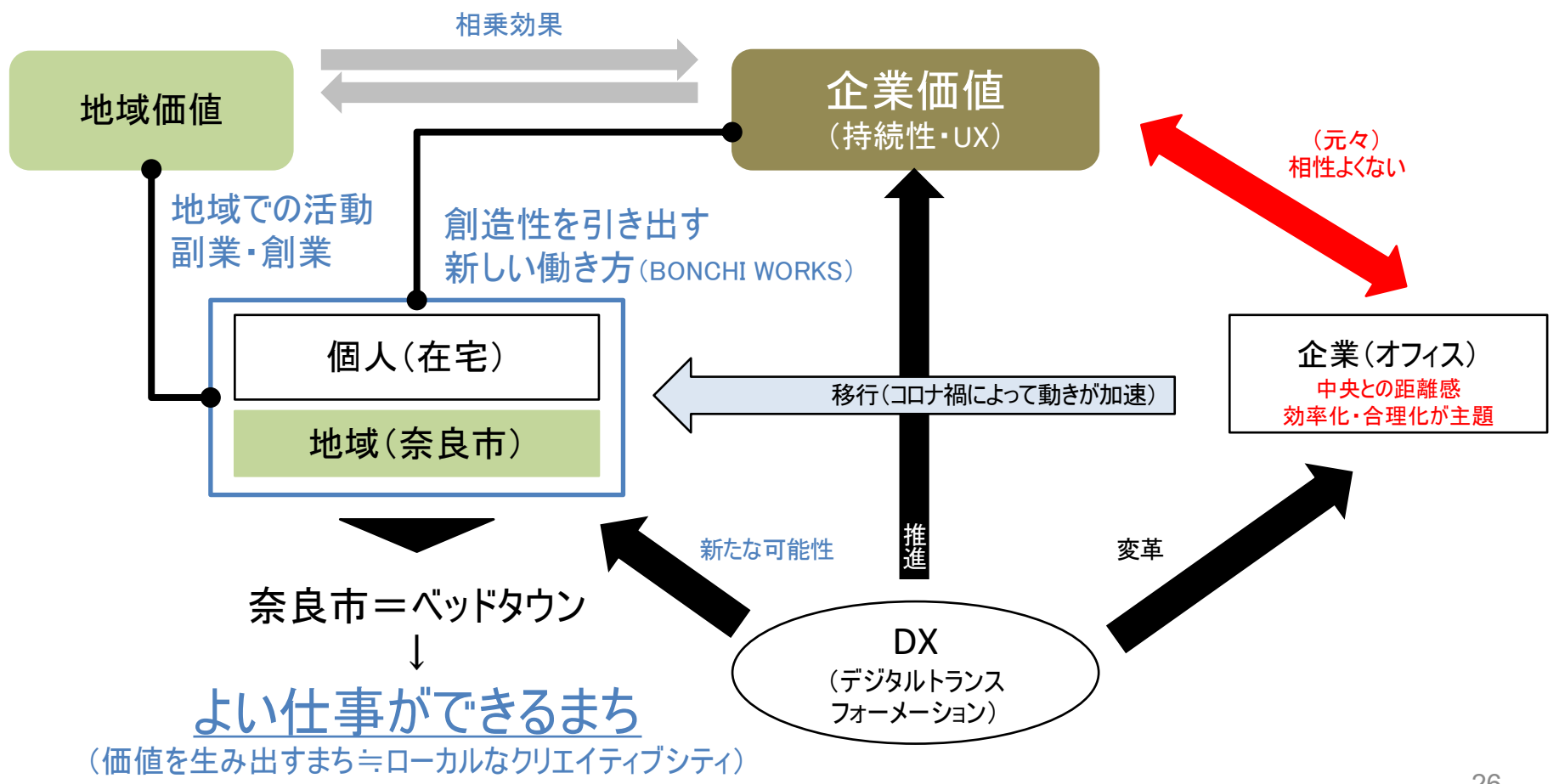
■アップロードされているエピソード(2021年3月1日現在)

書籍を解説するのではなく、ゲストと店主が本を題材に対話を深めることで、時代を読み解く「問い」を探索しています。

- ・『黄色い本』
- ・『マップス:新世界図絵』
- ・『サードプレイス-コミュニティの核になる「とびきり居心地良い場所」』
- ・『べてるの家の「当事者研究」』
- ・『突破するデザイン あふれるビジョンから最高のヒットをつくる』
- ・『南方熊楠 地球志向の比較学』
- ・『アルスエレクトロニカの挑戦:なぜオーストリアの地方都市で行われるアートフェスティバルに、世界中から人々が集まるのか』
- ・『男子』
- ・『新訳 茶の本』
- ・『社会イノベーションと地域の持続性-- 場の形成と社会的受容性の醸成』
- ・『学びとは何か-- <探求人になるために>』
- ・『カイエ・ソバージュ 1巻 人類最古の哲学』
- ・『中動態の世界 意志と責任の考古学』
- ・『「創造性」を育てる教育とマネジメント』
- ・『問い続ける力』
- ・『問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション』
- ・『長生きできる町』
- ・『社会保障再考 <地域で支える>』
- ・『対話のレッスン 日本人のためのコミュニケーション術』
- ・『どもる体』
- ・『外来種は本当に悪者か?:新しい野生 THE NEW WILD』
- ・『イモムシハンドブック』

■ ③人の創造性(潜在能力)を引き出す新しい働き方: BONCHI WORKS(背景・目指すこと)

- ①複雑性や不確実性が高まるビジネス環境
 - ②価値(持続性・UX)の重視
 - ③DX(デジタルトランスフォーメーション)による企業の変革
 - ④COVID-19が①②③を加速させ、リモートワーク(遠隔化・個人化)を主流に
- (オフィス勤務の再現ではなく)「創造性を引き出す新しい働き方」が求められている



③人の創造性(潜在能力)を引き出す新しい働き方: BONCHI WORKS(地域への広がり)

リモートワークが進むことを契機として、「よい仕事ができるまち」の実現に向け、BONCHIを起点に地域に広がる多様なワークスペースや地域にある創造性を引き出す資源とネットワークを形成している。

拠点

BONCHI

【4F】
働く人の創造性を
引き出すワークスペース

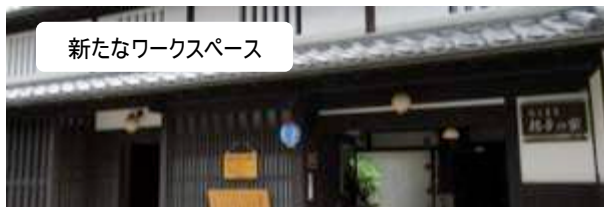
【3F】
会議室(大)

【2F】
コワーキング

【1F】
問い・学び
(書籍・イベントなど)
誰もが入れる(多様性)

多様なワークスペース

新たなワークスペース



(観光協会ウェブサイトより)

多様なニーズに対応



既存の文化的空間



既存の宿泊施設



価値を生むために欠かせない 創造性を引き出す資源

身近にある自然



各時代最先端の表現



アップデートする工芸



歴史を感じる街並み



■アーティスト・クリエイターとの協働(第一弾:のびねこ)

コロナ禍を「もっと自由に、想像力を取り戻す」契機として捉え、クリエイターと協働し、新しいライフスタイルをクリエイティブに表現する「BONCHI COVID-19 Creator's Project」を行なっている。

もっと自由に、 想像力を取り戻す

BONCHI COVID-19 Creator's Project

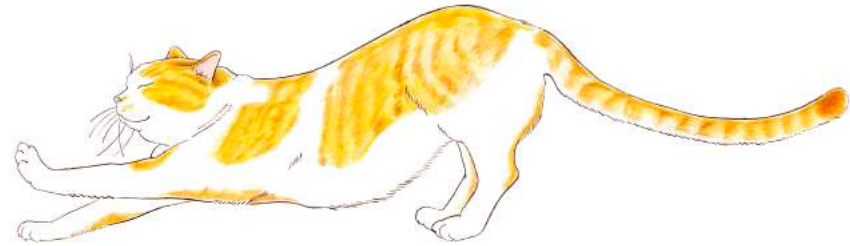
COVID-19は、それ自身が命にかかわる対応すべきことで、一方で、当たり前だと思っていたことの大事さや慣れ親しんだ暮らしの不自由さに気づかせてくれています。

子どもたちが友だちとじゃれ合うこと、遠くに住む恋人に会いに行くこと、仲間と酒を酌み交わすこと、施設に暮らす祖父母を訪ねること。

満員電車で会社に通うこと、家族との時間が取れないこと、都会に出ないとおしゃれな洋服が買えないこと、勉強や仕事のために生まれ育った地域を離れること。

「新しい生活様式」を誰かに決められるのではなく、自分たちが守りたいことを確かめながら、もっと自由に、それぞれの可能性が引き出される新たなライフスタイルや街のあり方を考えていきたい。

BONCHIはクリエイターと協力して、これからも想像力豊かな活動を行っていきます。



厚生労働省の新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」では人との間隔はできるだけ2m(最低1m)空けることが推奨されています。でも2mってなんだか想像がつくようでつかない距離ではないでしょうか。

例えば、2匹の猫が思いっきり伸びをしたらほぼ2mにもなるんです。そこでデザイナーの倉有希さん(daichusho design)と一緒に実寸大で猫を描いた「のびねこ」を制作しました。

「2m」という距離を「伸びをする2匹のねこ」に置き換えて見ると、なんだかのびした楽しい気持ちが出てきませんか。



- ・制作: BONCHI
- ・デザイン、イラスト: 倉有希 (daichusho design)
- ・協力: 株式会社 JITSUGYO
- ・special thanks : 1枚ずつ「のびねこ」を折ってくれた皆さま!